



中橋 友子 議員
(副議長)



台風19号の影響は、14都県、390市区町村に及び、箱根町では千mmを超える降水があるなど、堤防決壊、河川の氾濫、がけ崩れなどで死者行方不明者が百名を超える甚大な被害をもたらした。地球温暖化が要因の一つとされるが、日本政府はCO2排出量の削減に消極的である。

今後も猛烈な台風発生が予測され、北海道上陸の可能性も高いと想定される。備えには今後も万全を尽くし、防災・減災対策を常に強化すべきであり、次の点を伺う。
 (1) 札内川、十勝川、猿別川、途別川の堤防整備改修・床下げ整備は。
 (2) 川幅が狭く氾濫しやすい支流に水位計を設置し、住民がスマホで確認し、迅速に避難できる対策を。
 (3) ハザードマップ、防災のしおりの見直しは。
 (4) 国際基準に基づいた避難所を指す考えは。
 (5) これまでの防災訓練への障がい者と高齢者の参加状況は。地震・水害の種別、冬季や夜間の訓練を。

問 台風19号の教訓を生かし、防災対策の強化と見直しを

答 防災意識の向上や地域の防災力を高めるための啓発が大変重要と考えている

町長(1) 十勝川では、JR根室

本線鉄橋上下流部の右岸側で築堤盛土工事が実施され、十勝中央大橋下流部、千代田新水路実験水路部および千代田大橋下流部で河道掘削工事が行われている。札内川

では、JR根室本線鉄橋下流右岸側で水防資材の置き場となる水防拠点整備の工事が実施され、札内川ゴルフ場付近の右岸側では、河道掘削工事が行われている。途別川では、JR根室本線鉄橋下流部

で築堤の法尻を強化する築堤堤脚保護工事が実施され、JR根室本線から十勝川合流点までの区間の伐開工事が実施された。猿別川では、猿別水門と止若樋門の隣接部

で内水対策用の釜場を設置する救急排水施設設置工事が完成し、猿別水門では停電時でも門扉の自動降下が可能となる機能強化が行われ、さらにJR根室本線鉄橋下流

部で、伐開工事と河道掘削工事が行われている。平成28年の台風10号により越水被害が発生した旧途別川は、昨年度までに河川改修計

画の検討が行われ、本年度は河川法に基づく河川整備計画の変更手続きが行われており、来年度から築堤嵩上げと河川断面の拡幅を行う河川改修事業に着手する予定と伺っている。

(2) 国が管理する河川では、十勝川4か所、札内川2か所、途別川1か所、猿別川1か所に「危機管理型水位計」が設置された。北海道

が管理する河川では、猿別川、茂発谷川、旧途別川の各1か所に設置され、途別川、糠内川、古舞川、千住川、メン川、当縁川の各1か

所に令和元年度に設置予定である。これらの水位は、インターネット上で誰でも確認が可能となっており、大変有効な情報であると考えている。

(3) 現在のハザードマップは、24時間雨量に置き換えると十勝川で268mm、札内川で414mm、猿別川で370mm、途別川で428mmと想定し作成している。今年、北海道が管理する途別川の区間で、浸水想定区域の見直しが行わ

れ、令和2年度の出水期までに、一部見直しを行う予定である。

(4) 避難所の国際基準は、「スワイア・ハンドブック」にまとめられ、一人当たりの居住空間は3.5㎡、トイレは20人に1基とされている。災害初期を過ぎた後は、パーテーションでプライバシーの確保に努め、ダンボールベットの使用や国際基準を参考に避難所の質の向上を段階的に図ることが必要と考えている。

(5) 5年間の訓練では、障がい者や要介護認定者などの要支援者の方は58人、70歳以上の高齢者の方は1017人、全体の約43.6%の参加であった。自力歩行が困難な障がい者や高齢者については、共同体制の確立が課題と受け止めている。自主防災組織の組織化が進んでない地域もあり、防災意識の向上や地域の防災力を高めるための啓発等が大変重要と考えている。



地域防災訓練 (11月30日)
農業者トレーニングセンター